

校長だより

考えを述べる

数年前に「ある晴れた夏の朝」 「偕成社」 著者：「小手鞠るい」という「課題図書」にもなった本が大変脚光を浴びました。あらずじとしては、アメリカの8人の高校生が、広島・長崎に落とされた原子爆弾の是非をディベートするお話です。肯定派、否定派、それぞれのメンバーは、日系アメリカ人のメイ（主人公）をはじめ、アイルランド系、中国系、ユダヤ系、アフリカ系と、そのルーツはさまざまな立場の人たちです。日本人なら誰もが、「原爆投下」を肯定する人などいないと思うのですが、ここに登場する人たちは、様々な歴史や状況があり、考え方も独自の世界観があります。その彼らが、独自の考え方をもとに、議論を交わすわけです。

海外の人々と比べたときに、日本人は、一般的にあまり主張しないと思われがちです。決して考えがないわけではないのですが、あまり強引に物事を主張しようとしないので、考えがないと誤解されがちです。日本では「黙っていても相手の気持ちを察する」という、独特の空気をよむ感性が発達していることが、そうさせているのかもわかりません。そういえば、芸術においてもわびさびなど、落ち着いたものが好まれる傾向が強いように思われます。

しかし、日本人同士ならわかるこの感覚も、海外の人を相手にしたとき、考えがないと誤解されたままだと困ります。このお話に出てくる8人の高校生は、それぞれの主張をたたくかわせる中で、相手の立場を知り理解し受け入れそれぞれが成長していきます。

ここで私が言いたいのは、原爆のことではなく、「考えを主張できる人になりましょう」ということです。そのためには、考えを持つことが第一歩です。

同じくアメリカでの原爆にかかわる話ですが、米ワシントン州にあるリッチランド高校の学校の校章（ロゴ）が原爆の「きのこ雲」である事が、日本人留学生の発言によって世間が知る事となりました。リッチランドでは、原爆の材料であったプルトニウムがこの地のものだったことから、校章（ロゴ）に採用されたのです。

福岡出身の高校3年生の古賀 野々華さん（18）が留学先のリッチランド高校のキャンパスに足を踏み入れた時、すぐにきのこ雲のロゴに気が付きました。

古賀さんにとって、そのきのこ雲は第二次世界大戦中の日本への原爆投下の象徴だと感じたといいます。

当時、留学生の古賀さんは、ロゴに対しての意見を正確に伝えたり、表現する語学力を持ち合わせていませんでした。

古賀さんは歴史の授業中に原爆についての話題が登場するまで、自分の意見を誰にも知らせませんでした。

その後、良き指導者であるマーフィー先生と出会い、きのこ雲について、自分の考えについて話し合う機会をえました。

マーフィー先生は古賀さんに発言を促し、自分の考えを高校のジャーナリストと共有する事をすすめました。

学校側の承諾を得て、古賀さんは動画で自分の意見をスピーチする事となったのでした。

古賀さんは、原爆投下された長崎からほんのわずか離れた福岡県出身です。

「原爆投下後のあの雲の下に居たのは罪もない一般市民だった」と述べ、「その多くの命を奪った事に誇りを持ってもいいのですか？」と訴えました。

動画は、インターネット上で多くの人に拡散されて行き、世界中で反響を呼んでいます。ロゴを批判する人もいれば、原爆投下を容認する意見もあるといいます。

同級生からは「動画がなければ、日本側の意見を知る機会は一生なかった」と受け入れられたそうです。

考えを主張することは、大変な勇気や努力が必要です。しかし、考えを主張しないと、海外の人はこちらの考えを予想したり察したりしてくれないケースが多いです。そうすると、世界から取り残されたり、もめごとが大きくなったり、誤解されたままになります。

ぜひ、古賀さんの勇気を見習ってほしいです。自分の考えをもって勇気をもって主張する。それと同時に、相手の意見にもしっかり耳を傾ける。このことを努力し続けて、国際人と呼ばれる人になれるようがんばりましょう。

アラブの風に吹かれて

「角度を変えてみると」

アラブに派遣されるときに、私は、祖父から「アラブって毎日戦争になっているのと違うか？」と心配されました。毎朝新聞の隅から隅まで読むのが習慣の祖父ですら、そういった誤解をして心配するぐらいなので、大半の日本人のアラブに対するイメージは、もしかしたら、戦争やテロといったネガティブなものが多いのかもしれない。

実際に私が UAE で暮らしてみると、一定の間違った行動さえしなければ、大変安全な国だと感じました。間違った行動とは、石油施設等の撮影。（国の宝なので、スパイと思われる捕まえられます）や女性への無許可の撮影など相手の文化などに対するリスペクトのない行動は、とがめられます。

しかし、そういう基本的なことを注意していれば、特に暮らしにくいわけではありません。日本でも、もし外国人が畳の上を土足で上がれば怒ると思うのですが、それと同じかなと思います。

アラブで暮らしていると、並んだ列に横入りするなど「マナー違反」をする人が目につくことはあります。長い時間待っている目の前に平気で横入りされたら、腹が立つことが多いです。

しかし、自動車で病院に急いで行きたい時など、どうしても割り込みたいときに、アラブの人に横入りをお願いすると、誰もが、笑顔で前に入れとってくれます。他人に対する横入りもするけれど、他人の横入りにも寛大だったりします。「何か急ぐ事情があるんだろう」と寛容に考えるからだと思います。

価値観というものは、角度を変えたら違って見えるということです。国際理解というものは、異文化理解です。違った考えや価値観に触れ、考えの幅を広げて、柔軟に考えられる人になりましょう。